

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月7日

上場会社名 ゼリア新薬工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4559 URL <http://www.zeria.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊部 幸顕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報部長

(氏名) 森山 茂

TEL 03-3661-1039

四半期報告書提出予定日 平成21年8月7日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	11,602	2.2	171	△26.9	262	△9.6	177	△19.5
21年3月期第1四半期	11,352	—	234	—	289	—	220	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	4.28	—
21年3月期第1四半期	5.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	58,945	28,022	47.5	677.33
21年3月期	58,110	27,711	47.7	669.72

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 28,022百万円 21年3月期 27,711百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
22年3月期	—				
22年3月期(予想)		8.00	—	8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	24,000	△0.6	900	△6.8	900	△2.9	550	△28.8	13.29
通期	52,000	9.1	2,000	51.0	2,000	46.4	1,200	△0.3	29.00

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他の(2)をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 48,290,173株 21年3月期 48,290,173株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 6,917,300株 21年3月期 6,911,782株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 41,376,123株 21年3月期第1四半期 41,664,548株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.連結業績予想につきましては、平成21年5月19日発表の数値を変更しております。詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等様々な要因により記載の予想数値とは異なる場合があります。

2.当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来百万円単位にて記載しておりましたが、当連結会計年度より千円単位にて記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前第1四半期及び前連結会計年度につきましても、千円単位に変更しております。

(参考) 平成22年3月期の個別業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
第2四半期累計期間	23,500	△1.4	700	△19.4	800	△18.8	500	△42.1
通 期	50,000	7.1	1,700	64.1	1,700	36.1	1,050	△9.5

	1株当たり 当期純利益	
	円	銭
第2四半期累計期間	12.09	
通 期	25.38	

(注) 個別業績予想につきましては、平成21年5月19日発表の数値を変更しております。詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等様々な要因により記載の予想数値とは異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、昨年発生した世界的な金融不安の影響による景気低迷から脱し切れず、企業収益の悪化による雇用不安や設備投資の減少、個人消費の低迷など、依然として厳しい状況が続いております。

医療用医薬品業界におきましては、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用促進などの医療費抑制策の継続基調は変わらず、またOTC医薬品(一般用医薬品)市場におきましても、景気低迷により個人消費が伸び悩むなど、ともに厳しい環境下で推移いたしました。

このような情勢の中、医療用医薬品部門におきましては、最重点領域と位置付けております消化器官用薬の亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック[®]」、H₂受容体拮抗剤「アシノン[®]」などに営業力をより一層注力し市場拡大に努めましたが、市場競争の激化や後発医薬品(ジェネリック医薬品)の攻勢、さらには、一昨年より販売を開始した大腸内視鏡前腸管洗浄剤「ビジクリア[®]錠」の市場浸透の遅れ等により、苦戦を余儀なくされました。

一方、コンシューマーヘルスケア部門におきましては、昨年度より実施しているテレビCMなどにより、主力製品群である「コンドロイチン群」の、製品認知度がさらに向上し売上が拡大いたしました。また、滋養強壮剤「ヘパリーゼ[®]群」や植物性便秘薬「ウイズワン[®]群」も堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は116億2百万円(前年同四半期比2.2%増)となりました。一方、利益につきましては、営業利益1億71百万円(前年同四半期比26.9%減)、経常利益2億62百万円(前年同四半期比9.6%減)、四半期純利益1億77百万円(前年同四半期比19.5%減)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況について

当第1四半期連結会計期間末の総資産は589億45百万円となり、前連結会計年度末対比8億35百万円の増加となりました。その内訳は流動資産が255億60百万円で、前連結会計年度末対比7億32百万円の増加、固定資産が333億84百万円で、1億2百万円の増加となっております。資産の部の増減の主なものは、流動資産におきましては、受取手形及び売掛金が3億19百万円、商品及び製品等のたな卸資産が合計で2億79百万円増加いたしました。また、固定資産におきましては、投資有価証券が5億26百万円増加いたしました。有形固定資産が1億24百万円、投資その他の資産のその他が2億25百万円減少いたしました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は309億22百万円となり、前連結会計年度末対比5億24百万円の増加となりました。その増減の主なものは、短期借入金の増加7億92百万円、未払法人税等の減少1億13百万円、賞与引当金の減少4億85百万円、流動負債のその他の増加11億49百万円、長期借入金の減少6億8百万円等であります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は280億22百万円となり、前連結会計年度末対比3億11百万円の増加となりました。これは四半期純利益の計上1億77百万円、その他有価証券評価差額金の増加4億70百万円、前期の期末配当の実施3億31百万円等によるものであります。この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ0.2%低下し、47.5%となりました。

(2) キャッシュ・フローについて

当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、期首残高対比4百万円増加し、26億75百万円となりました。これは、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローが各々3億66百万円、1億24百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが4億95百万円のプラスであったためであります。

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

当第1四半期連結会計期間は4億95百万円の資金の増加となりました。これは、税金等調整前四半期純利益の計上3億32百万円、減価償却費の計上5億68百万円、売上債権の増加3億15百万円、たな卸資産の増加2億79百万円等によるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

当第1四半期連結会計期間は3億66百万円の資金の減少となりました。これは、有形固定資産の取得による支出2億29百万円、無形固定資産の取得による支出77百万円、投資有価証券の取得による支出3億64百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入3億22百万円等によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

当第1四半期連結会計期間は1億24百万円の資金の減少となりました。これは、短期借入金の増加7億92百万円、長期借入金の返済による支出6億8百万円、配当金の支払い3億2百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は、医療用医薬品部門において、主力品の販売が低調だったことや一昨年発売した大腸内視鏡前腸管洗浄剤の市場浸透の遅れ等により、売上高・利益ともに当初計画を下回りました。第2四半期以降につきましても厳しい環境が続くことが予想されますが、引き続きコンシューマーヘルスケア部門が堅調に推移するとともに、医療用医薬品部門においても年度内に新薬の上市が予定される等、年度後半には前期比増収に転ずることが見込まれます。

これらの結果、平成22年3月期の連結業績予想、個別業績予想につきましては、以下のとおりとなる見込みです。

(1) 連結業績予想

①第2四半期累計期間

売上高240億円（前年同四半期比0.6%減）、営業利益9億円（前年同四半期比6.8%減）、経常利益9億円（前年同四半期比2.9%減）、四半期純利益5億50百万円（前年同四半期比28.8%減）

②通期

売上高520億円（前期比9.1%増）、営業利益20億円（前期比51.0%増）、経常利益20億円（前期比46.4%増）、当期純利益12億円（前期比0.3%減）

(2) 個別業績予想

①第2四半期累計期間

売上高235億円（前年同四半期比1.4%減）、営業利益7億円（前年同四半期比19.4%減）、経常利益8億円（前年同四半期比18.8%減）、四半期純利益5億円（前年同四半期比42.1%減）

②通期

売上高500億円（前期比7.1%増）、営業利益17億円（前期比64.1%増）、経常利益17億円（前期比36.1%増）、当期純利益10億50百万円（前期比9.5%減）

なお、8月4日に発表した「Tillotts Pharma AGの株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」による業績への影響は現在精査中であり、後日改めてお知らせする予定です。したがって、連結業績予想には反映されておられません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

ア. 簡便な会計処理

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して一般債権に係る貸倒見積高を算定しております。

② たな卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

③ 有形固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している有形固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④ 繰延税金資産の回収可能性の判断

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

イ. 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,817,230	2,812,769
受取手形及び売掛金	12,678,678	12,359,214
商品及び製品	3,301,037	3,189,441
仕掛品	660,612	500,839
原材料及び貯蔵品	2,067,732	2,059,577
その他	4,073,553	3,942,697
貸倒引当金	△38,107	△36,287
流動資産合計	25,560,736	24,828,252
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,183,658	6,263,653
土地	10,082,255	10,082,255
その他(純額)	3,501,380	3,545,610
有形固定資産合計	19,767,294	19,891,518
無形固定資産		
投資その他の資産	1,587,719	1,664,693
投資有価証券	6,186,424	5,660,392
その他	5,939,855	6,165,401
貸倒引当金	△96,762	△100,112
投資その他の資産合計	12,029,517	11,725,682
固定資産合計	33,384,530	33,281,895
資産合計	58,945,267	58,110,147
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,827,916	4,966,451
短期借入金	13,672,787	12,880,080
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
未払法人税等	151,416	264,950
賞与引当金	341,934	827,018
返品調整引当金	169,366	186,086
売上割戻引当金	239,206	235,644
その他	3,425,490	2,276,242
流動負債合計	23,028,118	21,836,473
固定負債		
社債	2,600,000	2,600,000
長期借入金	4,740,625	5,349,395
退職給付引当金	173,274	168,437
その他	380,250	443,847

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
固定負債合計	7,894,150	8,561,680
負債合計	30,922,268	30,398,153
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	5,414,745	5,414,745
利益剰余金	24,023,870	24,177,680
自己株式	△7,284,031	△7,278,135
株主資本合計	28,747,983	28,907,689
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△724,984	△1,195,695
評価・換算差額等合計	△724,984	△1,195,695
純資産合計	28,022,998	27,711,993
負債純資産合計	58,945,267	58,110,147

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	11,352,894	11,602,267
売上原価	5,085,456	5,420,431
売上総利益	6,267,437	6,181,835
返品調整引当金戻入額	181,167	186,086
返品調整引当金繰入額	169,451	169,366
差引売上総利益	6,279,153	6,198,555
販売費及び一般管理費	6,044,950	6,027,329
営業利益	234,203	171,226
営業外収益		
受取利息	976	469
受取配当金	132,014	136,418
その他	9,889	24,069
営業外収益合計	142,880	160,957
営業外費用		
支払利息	61,567	56,316
その他	25,683	13,780
営業外費用合計	87,250	70,097
経常利益	289,832	262,086
特別利益		
投資有価証券売却益	156,528	36,756
受取補償金	—	30,987
貸倒引当金戻入額	3,292	3,504
特別利益合計	159,820	71,248
特別損失		
固定資産除却損	7,139	521
特別損失合計	7,139	521
税金等調整前四半期純利益	442,513	332,813
法人税等	222,300	155,595
四半期純利益	220,213	177,217

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	442,513	332,813
減価償却費	545,380	568,662
受取利息及び受取配当金	△132,991	△136,888
支払利息	61,567	56,316
売上債権の増減額 (△は増加)	831,125	△315,221
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△913,332	△279,525
仕入債務の増減額 (△は減少)	△266,606	△138,534
その他	61,212	564,604
小計	628,869	652,227
利息及び配当金の受取額	129,625	137,081
利息の支払額	△67,183	△61,005
法人税等の支払額	△698,527	△232,493
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,216	495,809
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△125,271	△229,482
無形固定資産の取得による支出	△247,229	△77,270
投資有価証券の取得による支出	△448,312	△364,559
投資有価証券の売却及び償還による収入	996,409	322,966
その他	△122,016	△18,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	53,579	△366,688
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	517,755	792,707
長期借入金の返済による支出	△552,376	△608,770
自己株式の取得による支出	△7,780	△5,896
配当金の支払額	△307,298	△302,700
財務活動によるキャッシュ・フロー	△349,699	△124,659
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△303,335	4,461
現金及び現金同等物の期首残高	2,352,131	2,670,679
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,048,795	2,675,140

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

(1)生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	8,449,036	7.1
(1)医療用医薬品部門	3,797,343	△1.7
(2)コンシューマーヘルスケア部門	4,651,693	15.6
その他事業	—	—
合計	8,449,036	7.1

(注) 1. 金額は正味販売価格換算で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

(2)受注実績

当社グループは販売計画並びに生産計画に基づいて生産を行っており、受注生産は行っておりません。

(3)商品仕入実績

当第1四半期連結会計期間における商品仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	2,613,733	4.8
(1)医療用医薬品部門	2,213,027	15.1
(2)コンシューマーヘルスケア部門	400,706	△30.0
その他事業	—	—
合計	2,613,733	4.8

(注) 1. 金額は実際仕入額で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

(4)販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円, 端数切捨表示)

事業の種類別セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医薬品事業	11,554,513	2.1
(1)医療用医薬品部門	6,946,196	△2.6
(2)コンシューマーヘルスケア部門	4,608,316	10.0
その他事業	47,753	42.6
合計	11,602,267	2.2

(注) 金額は消費税等抜きで表示しております。

「補足資料」
新薬パイプラインの状況

I. 国内開発状況

1) 消化器系分野

(平成21年8月7日現在)

開発段階	開発番号／一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
申請中	Z-206/ メサラジン	自社	潰瘍性大腸炎	pH依存型放出制御製剤	導入 予定製品名 アサコール
フェーズⅢ	Z-206/ メサラジン	共同開発 (協和発酵キリン)	クローン病	pH依存型放出制御製剤	導入 予定製品名 アサコール
	Z-103/ ポラブレジンク	自社	味覚障害	亜鉛補充	導入 プロマック 効能追加
	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズI/II	Z-208/ タミバロテン	共同開発 (テムリック)	肝細胞癌	レチノイン酸RAR α 受容体作動作用	導入

2) その他の分野

開発段階	開発番号／一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
フェーズⅢ 追加試験	Z-100	自社	子宮頸癌	免疫調節作用	自社オリジナル アンサー 効能追加
フェーズI	Z-207	自社	アレルギー性鼻炎	粘膜組織凝固・収縮作用 エタノール・ステロイド配合剤	導入

II. 海外開発状況

開発段階	開発番号／一般名	開発	適応症	作用機序 及び 特長	備考
承認 (韓国)	Z-103/ ポラブレジンク	導出 (SK Chemicals)	胃炎・胃潰瘍	胃粘膜保護作用	導入
フェーズⅢ準備中 (欧州)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社オリジナル
フェーズⅡ (北米)	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	導出 自社オリジナル
フェーズⅡ準備中 (欧州)	Z-360	自社	膵臓癌	ガストリンCCK ₂ 受容体拮抗作用	自社オリジナル